

論文審査の結果の要旨

氏名：島野 嵩也

博士の専攻分野の名称：博士（歯学）

論文題名：慢性期摂食機能障害に対するカプサイシン含有フィルムの効果

審査委員：（主査） 教授 小室 歳信 ㊞

（副査） 教授 植田 耕一郎 ㊞ 教授 石上 友彦 ㊞

教授 大木 秀郎 ㊞

トウガラシの辛味成分であるカプサイシンは、サブスタンス P の分泌を促進することにより、低下した嚥下反射を改善することが報告されている。そこで、カプサイシン含有トローチ（飴形状）が考案された。嚥下反射遅延が認められ、嚥下反射に要する時間が 5 秒以上と異常に長い時間を要する高齢者にカプサイシン含有トローチを 1 日 3 回 1 ヶ月投与したところ、嚥下反射時間が 5 秒台から 3 秒台に短縮し、ほぼ正常値に近づいたとの報告がある。

カプサイシン含有トローチは、摂食機能障害が重度の場合には、トローチを口腔内で溶解することが困難であり、また、トローチを誤飲してしまう危険性があるため、臨床的使用の困難な場合がある。この問題を解消するために最近カプサイシン含有のフィルム形状が考案された。その特徴は、従来のトローチとカプサイシン含有量が同じであること、形状の違いにより誤飲および誤嚥の危険性が低く、また使用時間が短いことである。

今回、慢性期摂食機能障害患者に対する本フィルムの効果について、使用頻度および方法を規定し、摂食機能診断としての臨床診断および装置診断法を用いて検証をした。その結果、以下の結論を得た。

1. 反復唾液嚥下テストはいずれの時期も、投与直後の嚥下回数の増加を示し、改定水飲みテストは 2 週間後に投与直後のスコアの改善が認められ、フィルム投与直後の即時的効果が認められた。
2. 簡易咳テストにおいては、フィルム投与前と投与直後、並びに初回時から 4 週間後にかけて時期による有意差は認められなかった。
3. 嚥下反射潜時に関しては、投与前と投与直後の即時的効果は認められた。
4. 喉頭蓋刺激反射においては、初回時と 4 週間後の結果から即時的効果が認められた。

以上の結果から、4 週間という期間において、カプサイシン含有フィルムの嚥下機能への投与直後の即時的効果については期待できることが示された。これらの結果は、慢性期摂食機能障害に対してカプサイシン含有フィルムの使用により摂食機能が即時的に改善することを明らかにしたもので、歯科基礎医学および摂食嚥下リハビリテーションの発展に寄与するところ大であると考えられる。

よって本論文は、博士（歯学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成 26 年 3 月 5 日